



## ねばり強く、進んで鍛える人間であれ

校長 清水 一司

早いもので、今年も卒業生を送り出す時期になりました。一年間、保護者、地域の皆様には本校教育活動にご理解とご協力を賜りましたことに御礼申し上げます。

「最強の市民ランナー」「公務員ランナー」と称された埼玉県久喜市出身のマラソンランナー川内優輝選手。現在はプロランナーとして活躍していますが、数年前まで埼玉県立定時制高校の事務職員として働きながら競技を続けていたことが広く知られています。川内選手には、大学卒業後に実業団チームで競技に専念する道もあったと思いますが、中学、高校、大学時代に目立った記録がなかったため埼玉県職員になることを選んだそうです。それでも走ることを諦めなかった川内選手は、就職後も出勤前2時間ほどの練習と、職場への往復（ご自身は「通勤ラン」と呼んでいます）で日本のトップランナーへと上り詰めます。プロランナー転向後の2021年には、フルマラソンで2時間7分27秒の自己ベストを記録、昨年10月にはパリ五輪マラソン代表選考会で4位になりました。まさに、アマチュアスポーツ界から誕生したスターと言えるでしょう。

もう一人、アマチュアスポーツ界から誕生したスターがいます。こちらは自ら「天才のサラリーマンボクサー」「二足のわらじを履くボクサー」と称する国際ボクシング連盟フェザー級1位の阿部麗也選手です。阿部選手は高校卒業後、神奈川県自動車部品メーカーに就職し、溶接や板金の仕事をしながらボクシングを始めたそうです。2013年6月にデビューしてから10年の歳月をかけて世界戦に挑むまでに上り詰めました。阿部選手は日本時間の3月3日、アメリカでメキシコの選手を相手にタイトルマッチに挑みます。世界チャンピオンの称号を手に入れる日は目の前まで迫っています。

この二人の選手はともに、いつ訪れるかわからないチャンスを逃さないために、揺るがぬ信念をもち、努力し続けることが大切であることを我々に教えてくれます。仕事をもっているからには、練習時間、投資できる金額が限られていたことでしょう。専門のトレーナーやコーチが付くこともなかったはずですが、途中で夢を諦めかけたこともあったに違いありません。働きながら夢を追い続けることは我々が想像している以上に苦しかったはずですが。

本校では「ねばり強く、進んで鍛える生徒」を求める生徒像の一つに掲げ、教育活動を展開してきました。才能が発揮されるタイミングは人それぞれです。本校卒業生には、この二人の選手のように夢の実現に向けてねばり強く、進んで鍛える人間であってほしいと願っています。